

小学部6年「ぶんをつくらう」（国語）

取組の理由

- ・ 集団学習において音声言語での表現が難しい児童が、発表できるようにする。
- ・ 音声言語での表現が難しい児童が「DropTap」を活用して、自分の気持ちや思いを表現できるようにするため。

使用端末

GIGAスクール端末（教員使用：ICTパソコン、プロジェクター）

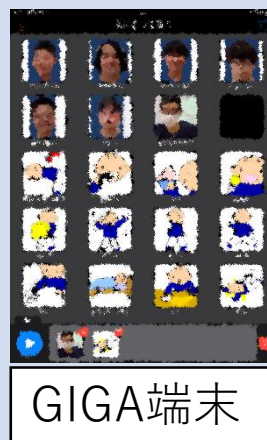
ツール、アプリ

Drop Tap（教員使用：パワーポイント）

取組内容

初回：友達や先生が行動する映像を観て、「誰が」、「何を」しているか答える学習を行った。音声言語での表現が難しい児童は、ヒントとなる絵カード表を指差して、表現できるようにしていた。

2回目以降：授業展開は同様に行った。音声言語での表現が難しい児童は、「Drop Tap」を使用し、音声言語で問いの答えを発表できるようにした。

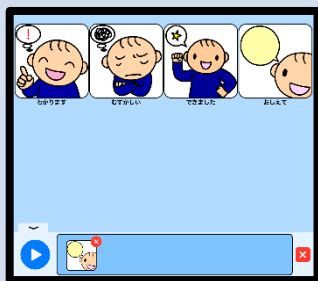


選択肢を
選んで再生



小学部6年「ぶんをつくろう」(国語)

授業後の児童・生徒の様子や変化



様子

•音声で表現できるのが嬉しいようで、紙媒体の支援ツールよりも積極的に操作する様子が見られた。

変化

•音声言語の表現が難しい児童が、Drop Tapの使い方を覚え、日常生活の場面でDrop Tapを使って、個別課題ができたこと、自分の気持ち、昨日家でしたことなどを伝えられるようになった。

ICT機器を使って
みて

◎：よかったところ
△：課題、問題点等

◎ 一人一台GIGA端末があるためコミュニケーションツールとして、導入しやすい。

△ GIGA端末をコミュニケーションツールとして活用する場合、アプリを起動するまでに、①カバーをめくる、②電源を入れる、③パスコードを入力する、④アプリを選択する、という4つの動作が必要であり、操作が難しい児童には一人での活用が難しい。

→本学級にも難しい児童がおり、その児童に対しては、1ボタンで音声の流れるVOCAを活用している。

△ GIGAスクール端末は、小学部の児童にとっては大きく重いため、特別教室などに運べない。

→現在活用している児童は、教室内でのみ活用している。